

48 明治12年6月19日 菊池長閑

第六号六月十九日

第五号四月六日出五月十四日達し差送たる箱物請取たる由安心せりクリン夫婦之写真二枚達たれとも返書反訳ハ達さす彼之送物ハ慰ニ成れハ喜悅也織もの杯ハ余リ小分故何之用にも立まし我如き物数素ならハ切れ鑑に張付るまでの事なるへし分明国にも日滅口事あるとハ実ニ新聞なり況や未開の我国之如き殊ニ避遠之地ニハ尤なるはつ当今ハ老人も大概従前之五箇八箇ハ話計之足しニならぬ事を覚多分廃止又日滅も余程減少なれともやゝもすれハ始り出し壯者ハ之ヲ笑て皆踏消し其代りにハ自他分別之區別なく行形次第にて不始末至極也田舎之分明も又以之外笑種ある也

第六号四月廿一日出五月廿八日達し西洋男女之交又婚礼之事云

々至極せり是ハ則開化之國風なる也其証ハ日本ニも昔ハ別段近年にても開たる東京などハ盛岡杯之如く年若にて之婚礼少なき様聞ゆ又他國人雜沓するに女子へ徒する者なし盛岡などハ夫之為す夜分なと婦女之独歩を嚴禁するハ或ハ徒者を恐れ又不行状にも見ゆる為メ也此風習之起りたる也推考するに永縁之難有サニ当時之如く不学にてハ活計立られぬと云ふ事なけれハ男子ニして情発するニ至ると身の隙ニ任せ其情発し遊処ニ行か或ハ処女ニ密約する事間々ありて互ニ縁約之差支もある故早く結婚する事ニ成而も自然之勢とも云ふへし夫より何となく差急習風と成来り当時ニ至りてハ婦女之十七八までに結約なき者ハ初縁より繼母ニ成る様ニ成り来り実ニ不便至極ニいふも余りある也必竟未開之習慣にて不宜され共又時勢のする処不得止ハ両親之身にして心急くなり込りたるもの也

第七号五月七日出本月十三日ニ達し書翰紙正ニ達せり河上氏英國行ニ付不幸申なり然共書翰袋あれハ先つ一通之音信ニ事欠事あるまし

画入新聞三度達たり随分御祖母様之御慰ニも相成たり

去ル一日於大泉寺梧樓先生之靈祭執行タリ此發起人例の物数素藤森万次郎奔走にて別紙之引札なとす懇意并門人ハ勿論旧修文処小者ニ至まで打集心配する事皆修文処之如し当日祭主我相勤是は親類之神饌を供する神官ハ菊地武頭取にて七名祝詞ハ二見清故ヲ以也

六草稿にて同人自ら読上ケ祭文ハ太田代熊太郎草稿にて松原富太郎読上ケ皆祭服ヲ着ケ蔽ニ行たり此式畢て書画席二席ニ設け他処ハハ県官を始め仙台より来合たる画人共八九名来り其外外来

生惣計三四百名もあるへし外来ニハ赤飯煮ノ別席ニハ酒肴を設けたれハ酒家ハ乗して大酔す手ニ余る乱妨ニ至るへしと思ひし外皆真詰にて聊も乱らるゝ事なく七時半過ニ退散せり殊ニ好天氣也祝詞祭文等は次便ニ可遣し此上ハ碑ヲ建る之目論見出既ニ式三拾円出金と申事也我手向之奇

去年の冬只かりそめとおもひしを
たひの別れとなりニけるかな
当年養蚕かなりニ参りさうなり

武夫殿

長閑

14 Merchant Exchange
Boston Mass. U. S. A.]
(武夫注記2)
「答條」

(消印1)
「TOKEI JAPAN 26 JUN」
(消印2)
「YOKOHAMA JUN 29 1879」
(消印3)
「REC'D IN BOSTON MASS. JUL. 25 10 A. M.」
「SAN FRANCISCO []」

(封筒表)

「米國ボストン府 (消印2)」

菊池 武夫 殿

(武夫注記1)

(消印3) (消印1)

(武夫注記2)]

(封筒裏)

「大日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番

菊池 長閑

(消印4) 報無事

十二年

六月廿日発

(武夫注記1)

「Mr. Takeo Kikuchi

c/o Gilbert Attwood & Co.